

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	13-074	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Impact of maternal negative affectivity on light alcohol use and binge drinking during pregnancy. 妊婦の陰性感情と妊娠期における飲酒の関連		
執筆者		
Stene-Larsen K, Torgersen L, Strandberg-Larsen K, Normann PT, Vollrath ME.		
掲載誌		
Acta Obstet Gynecol Scand. 2013 Dec;92(12):1388-94. doi: 10.1111/aogs.12259.		
キーワード		PMID
飲酒、妊娠、飲酒量、影響		24127875
要 旨		
<p>目的： 妊娠期の不安・抑鬱等の陰性感情と飲酒の関連について検討する。</p> <p>方法： 1999年から2008年間のノルウェーの妊娠中女性とその夫66,111人（ the Norwegian Mother and Child Cohort study (MoBa) ）を対象として、妊婦の不安・抑鬱感情等の陰性感情と飲酒状況の関連を検討した。不安・抑鬱感情はthe Hopkins Symptom Checklist (SCL)を用いて、飲酒状況はthe Alcohol Use Disorder Identification Test - Consumption (AUDIT-C)を用いて評価した。少量飲酒者は1/2から2杯を一月に4回まで、大量飲酒者は一度に5杯以上飲酒する者と定義した。</p> <p>結果： 妊娠初期の陰性感情に対する多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、非飲酒者と比較すると、少量飲酒者で 1.27(1.19-1.36)、多量飲酒者では 1.55(1.44-1.67)であった。妊娠中期は、非飲酒者と比較すると、少量飲酒者で 1.28(1.18-1.39)、多量飲酒者で 2.14(1.70-2.69)であった。</p> <p>結論： 妊娠期の不安・抑鬱等の陰性感情は妊娠初期、妊娠中期ともに、少量飲酒、大量飲酒の両者と関連していた。</p>		